

## 高知県における明治期の自由民権運動を背景とした私学教育の展開 — 立志学舎の教育活動を中心として —

岩 崎 保 道

高知大学 人文社会科学系 教育学部門

### Progress of Private Education in the Light of the Freedom and People's Rights Movements in the Meiji Era in Kochi Prefecture: Focus on the Educational Activities of the Risshi Gakusha Educational Institution

Yasumichi IWASAKI

キーワード：自由民権運動 高知県 私学教育 立志学舎

#### I . はじめに

明治初期の高知県においては、政治活動家である板垣退助や片岡健吉、林有造などが中心となって自由民権運動の拠点となる政治結社・立志社を設立した。そして、この団体が教育機関・立志学舎を設立して思想教育を行った。本稿は、明治初期に全国的に近代教育制度が導入されていくなか、高知県において特筆すべき教育活動を展開した立志学舎の設立目的や活動内容、自由民権運動との関わりなどについて、当時の教育環境を踏まえながら、高知県における私学教育の特徴を考察するものである。

明治初期より各地においては士族の結社や集団が次々とつくられた。そのような社会的背景のなかで自由民権運動が展開されるとともに、政治結社立または、その支援の下に各種の学舎などの教育機関が設けられた。そのなかで、立志学舎は当時として進歩的な教育を実践しており、高知県を代表する教育機関であった。特に、慶應義塾より英語教師を招へいしたことを契機として「自修自治」の教授方式が導入されるなどの教育改革が行われて、生徒自らが学び研究していくという態度を育んでいった点は、立志学舎の教育水準を高めることに大きく寄与したと思われる。

廃藩置県以後、高知県の教育政策は、郷学校（幼年課）、小学校（小学課）、致道館・語学校（中等課）という単線型の学校系統が組織されていた。このことを背景に、明治期の高知県は旧藩の教育制度を基礎として、県独自の立場から全県民を対象とする教育制度の近代化を図っていた時期であった。

高知県における自由民権運動の発端は議論の余地があるが、1874年1月の民撰議院設立の建白書の提出に始まると考えられる<sup>1)</sup>。この立志社を中心に自由民権運動が展開されて全国各地で政談演説会や懇親会、研究集会などが開催された。立志社は豊富な人材や資金力を持っており、1883年に解散を決定するまで自由民権運動の軸として活動した。立志社と同時期に開校したのが立志学舎である。当時、高知県では立志社の思想に反対する人々によってつくられた学校や、実業教育を行う女子学校が開校するなど、私立の教育機関が次々と設置されており、明治期の私学教育を考察するうえで興味深い時期である。しかし、立志学舎に関わる当時の資料の多くが亡失しており、詳細な検討が困難である。そのため、現存する資料や先行研究などを基に研究を重ねることは意義があると考えられる。

#### II . 先行研究

高知県における明治期の自由民権運動を背景とした私学教育に関わる先行研究には次のものがある。

影山（1972）は、立志社が設立されて以降、その教育機関である立志学舎が展開した教育の実情や総体的な業績が不毛であるとして、立志学舎の教育内容や経営努力の考察を行い、「立志社と自由民権論」「立志学舎の開校とそこに展開された教育」などについて論考した<sup>2)</sup>。特に、立志学舎の設立趣旨や開

設に関わる詳細な記述、立志学舎の教育と慶應義塾との関連は興味深い。また、立志学舎がその役割を果たして終焉を迎える過程、その再興としてつくられた高知共立学校の教育課程まで論じられている点は、資料的価値が高いと言えよう。

千葉（1987）は、自由民権運動を背景とした立志学舎の設立理念や教育目的を整理するとともに、立志学舎の再建として開校した高知共立学校の背景について論じている。その中で、「立志学舎が民権学校としての性格を濃厚にもつものであったのに対し、共立学校はその基本を継承しながらも、より一般的な中等学校へと発展する可能性を多分にもっていたといえる。そのことが、逆に自主的学校として発展する可能性を閉ざし、一般的な中等学校を補完する私立の中等学校に吸収されるかたちでしか存続し得なかった、とみることができるのである。<sup>3)</sup>」と論及している。

黒崎（1984）は、高知県における自由民権運動と教育の概況を整理したうえで、1883年の県の教育に着目し、学事報告を根拠として「県当局が教育政策の実施にあたって自由民権運動を対抗勢力として強く意識していた<sup>4)</sup>」と述べている。また、1882年当時の幹部が立志社の勢力を自らの県政に利用することを図って行政担当者や、中学校・師範学校の校長や教員に多く立志社員を登用したが、その幹部が代わると、立志社員を職から追放し、高知県における自由民権運動を抑え込む人事が行われたと述べている<sup>5)</sup>。これらのことから、県当局には自由民権運動に敵対する考えを持つ幹部がいたことや、立志社関係者が高知県内の教育において、大きな影響力を持っていたことが想像できる。

山下（1992）は、自由民権運動と英学との関係から立志学舎の校風を考察し、「自主的な学習の気運に満ちた立志学舎の英学教育を色濃く特色付けていたものは、教師と生徒との間の自由民権運動に対する旺盛な意欲であった。慶應義塾から出講した英学教師の多くは熱心な民権主義者であり、彼等の英学教育は、民権思想を鼓吹するための手段でもあった。」と述べた<sup>6)</sup>。

寺崎（1995）は、立志学舎と慶應義塾との関係を通じて、立志学舎の課題や教育内容の特徴をとりまとめた。立志社の開校当時について、高い理想のもとに立志社員の子弟教育機関として出発したものの、とうてい所期の目的を果たすことができなかったと述べている<sup>7)</sup>。そのような状況の中、立志社の幹部が1875年に上京して福沢諭吉もしくは慶應義塾関係者に英学教師の派遣を要請したものと推察している<sup>8)</sup>。その結果、立志学舎は慶應義塾より江口高邦と深間内基の両名を招へいすることになったが、彼らは、教材、カリキュラム、成績評価など一切の教育システムについて、ほぼ慶應義塾と同一の方式を採用し、その内容は極めて水準の高いものだったという。この評判は、新聞にも紹介されて東京にも伝わったとされている。

私立土佐女子学校は、立志学舎の意志を継ぐ高知共立学校と合併した学校であり、それが現在の土佐女子中学高等学校（高知市）となっている。同校は1992年に明治中期の高知県における教育環境を背景にしながら高知共立学校の学校日誌を中心に学校設立の経緯、教育内容、学校経営などについて取りまとめた<sup>9)</sup>。カリキュラムの詳細や教育の特質、立志学舎との関わりなどにも言及しており、当時の学校教育の状況を把握する上で貴重な資料である。

### Ⅲ．明治期における高知県の自由民権運動と教育

#### 1．高知県の私学教育の展開

明治初期の高知県の教育界では、立志学舎の開学に刺激されて多くの私立学校が設立された。その中で立志社の進歩主義に反対する人々によりつくられた学校として、高知県教育史編集委員会（1964）は、静俟学校（1874年開設）、香長学舎（1879年開設）、猶興学校（1879～1885年頃に運営）をあげている<sup>10)</sup>。静俟学校は旧城下に住む上級士族の佐幕派が構成員の静俟社によってつくられた。最盛期の生徒数は290名ほどであり、1878年頃まで存続していた。香長学舎は下級士族や郡部に住む旧郷士である古勤王党系の嶺南社によって香美郡田村字永田につくられた。京都より儒家の中沼葵園の長子梅潤が招かれて詩経、日本外史、国史略などの講授を行った。後に、高知県議会議長を務める弘田正郎が講義を務め、ペンサム「立法論綱」やスペンサー「社会平権論」を講じた。高知城下や徳島県からの来学者もあったという。香長学舎は香長学校に改名し、数学、英学、法律学などを教授科目に加えたが1888

年に閉校した。猶興学校は猶興社が設立した学校であり須崎村につくられた。

明治期における高知県の女子私学教育は、裁縫や手芸を中心としたもので、規模は小さく学校としての設備を整えたものはわずかだった。そのなかで、1886年に創設された高知英和女学校は、高知県初のキリスト教系の宗教学校であり、智育と徳育が理念として掲げられ、英語学、数学、漢学が課せられていたが、1896年頃に閉校した。

高知実業女学校は、1899年に高知県の女子実業教育の発達を図る趣旨を持ち、高知婦人実業会の支援を受けて設立された。同校には、本科、速成科、補修科が設置されて、主に裁縫、手芸、修身、家政などが教授された。

私立土佐女学校（現在の土佐女子中学高等学校）は、1902年に私立高知女学校と成女学舎が合併して創設した学校である。初代校長は、ローマ字論者の南部義壽が就任した。しかし、校舎が狭小であり、学生を同時に収容することが困難であったため、学校運営に支障をきたしていた。そこで、私立土佐女学校は、当時、広い校地と校舎を有しながらも入学志願者の著しい減少のため、閉校の危機にあった高知共立学校に合併を申し入れ、1903年に合併が成立した。高知共立学校は、立志学舎が閉校した後、その理念の再興を図って1883年に開校した学校であった（本章3.を参照）。私立土佐女学校は1904年に高等女学校に昇格し、校名を土佐高等女学校に改称した。

このように、明治初期より様々な思想を持つ人々によって教育機関がつくられて、それぞれの設置目的を果たすべく私学教育が展開された。

## 2. 立志社と立志学舎の設立目的と活動

明治初期、高知城下には武士子弟の自主的錬成組織が多くつくられていたが、廃藩置県以降、墮落状態に陥っていたため、板垣退助は彼らに自由主義の政治思想を吹き込んでいた<sup>11)</sup>。そのような状況の中、立志社は、1874年に九反田の旧開成館<sup>12)</sup>を旧藩主の山内家より借用して設置した（図1）。立志社設立の目的は、「立志社建設之趣意書」において「人民の権利を伸長し、生命を保ち、自主を保ち、職業を勤め、福祉を長ずる」ために、「自ら治め、自ら助け、自ら立つ」ことから始めて、民会を設立し、それによって国家定立の基本を立てようとするものだった<sup>13)</sup>。立志社は、貧窮士族を支援するために商局を設けて殖産興業を推奨し、製茶工場を開設して士族を雇ったり、高知県の物産を県外の豪商に販売するなどの事業を行った（図2）。この事業は、1871年に開業した高知民立「共立社」が運営していた製茶業、養蚕業などの殖産興業、新聞印刷業、英語学校「共立学舎」などの経営を事実上受け継ぐものだった<sup>14)</sup>。「共立学舎」では、富永らく、細川劉、北川貞彦、宮地茂平らの後の自由民権家が多く学んでいる<sup>15)</sup>。しかし、1873年12月に廃止された。

立志学舎は、帯屋町の旧兵舎を借用して開校する予定だったが、権利上の問題や教員不足などの課題があった。そのため、本社（立志社）と同じ九反田の旧開成館跡に1874年に創立された（図3）。

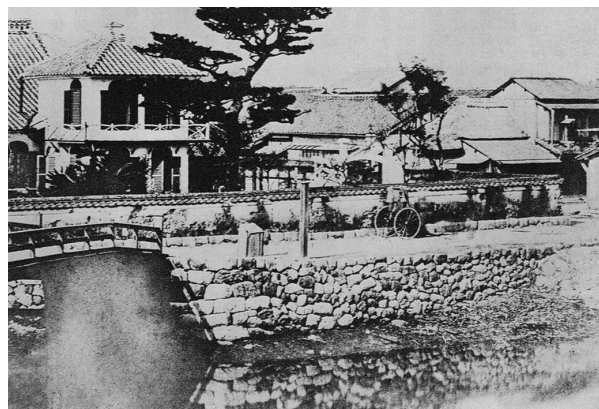


図1 立志社風景  
（出典）高知市立自由民権記念館（1998）：立志社，9.

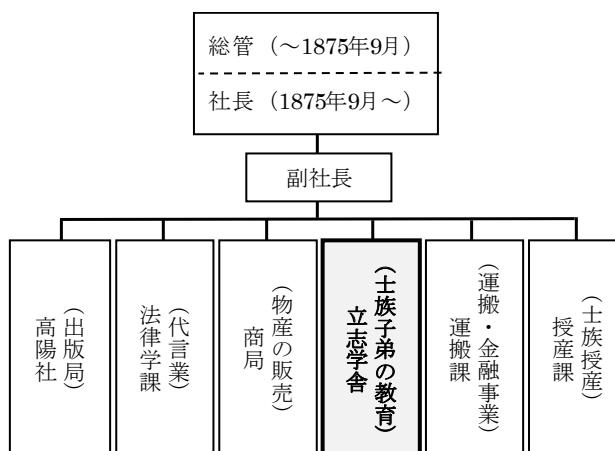


図2 立志社の組織図（1874～1880年6月）  
（出典）高知市立自由民権記念館（1998），前掲書，13.





図3 開成館風景（「土陽新聞」1883年3月15日）  
（出典）高知市立自由民権記念館所蔵

立志学舎創設の趣意書には、「西洋の教育論ではまず人民の品行について説くが、我が国は外国の影響を受けて技芸学術が日進月歩の勢いですすんでいるけども、人民の品行は反対に退却している。人間の業績は物事をやりとおす意気込みと忍耐力により、この二つを養い盛んにすることで人民の通義権利を伸ばすのである。我々はこの志をもってこの学舎を開き、一般公共の幸福を高める」とされている<sup>16)</sup>。つまり、わが国人民が、品行の基本である元気を振起し「自修自治」の精神を以て人民の通義権利を確立することが一般公共の幸福につながるとして、その「自修自治」の精神の教育を、立志学舎の教育の基本的眼目であることを宣明していたといえよう<sup>17)</sup>。「自修自治」の精神を育成し、人民自らが天賦人權の主体者として成長すること

と、それが民撰議院設立といった立志社の政治目的の実現のためにも必須の基礎的要件でもあった<sup>18)</sup>。このような意識が付属の教育機関として創設に踏み切らせた背景と考えられる。

図4は、明治期の高知市街における立志社と立志学舎の位置を示すものである<sup>19)</sup>。①は、当初、立志社と立志学舎が置かれた旧開成館（九反田）であり、後に、立志社本社は②の帯屋町へ、立志学舎は③の中島町の板垣邸に移転した。立志社と立志学舎が移転した理由は、旧開成館の所有者である山内家が建物を海南私塾分校とするため、立志社に返還を要求していたためと考えられる<sup>20)</sup>。

立志学舎では、第一等生～第六等生までは近代政治思想を基調とした政治・法律・経済・歴史・修身など各分野の原著による教育が、また、等外一級生から同三級生までは原著による英語の教育が行われた（表1）。立志学舎の教育を実質的に支えていた英学担当教師は慶應義塾の出身者だった。



図4 明治期の高知市街（出典）河田小龍（1878）「高知市街全図」／高知県立図書館所蔵

表1 1877 年下半期の立志学舎のクラス編成  
(出典) 影山昇 (1972) : 明治初年の土佐派自由民権結社「立志社」と「立志学舎」の教育, 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学, 13.

第一等生	ベンサム「法理書」	ミル「自由之理」
第二等生		
第三等生	ウールセー「萬国公法」	ミル「代議政体」
第四等生	ギゾー「文明史」	ルソセル「政体書」
第五等生	スチュデント「佛国史」	ウェーランド「修身論」
第六等生	クエッケンボス「窮理書」	チャンパー「経済書」
等外一級生	クエッケンボス「大米国史」	グードリッチ「佛国史」
同二級生	グードリッチ「英国史」	グードリッチ「萬国史」
同三級生甲	パーレー「萬国史」	クエッケンボス「文典」
同三級生乙	チャンパー「第二リートル」	クエッケンボス「小文典」
同三級生丙	ウキルソン「第二リートル」	ウキルソン「スペルリング」

教育が促進された。学舎で学んだ者には、坂本南海男（直寛）、大石正己、江口三省、西原清東など、後の自由党で活躍する人物がいた（図5）。

立志学舎の教員・生徒数は、生徒数について創設時の1874年度が最も多く300人であるが、その翌年は70人まで落ち込んでいる（表2）。これが、寺崎（1995）が指摘した、「高い理想のもとに立志社員の子弟教育機関として出発したものの、とうてい所期の目的を果たすことができなかった」<sup>22)</sup>という危機的な状況の表れかもしれない。しかし、1876年に教育改革を行い英語教育を実践した成果のためか136人に増加した。教員数は1876年度より数年間にわたり10名を超えたが、1879年にはわずか3人に減少してしまう。これは、この当時、立志学舎が深刻な資金難に陥っていたことから、学舎の運営が困難になっていたことが原因と考えられる。1879年の生徒数は150名であり、少数の教員が多くの生徒を教育しなければならない状況に陥っていたことがうかがえる。

表2 立志学舎の教員数、生徒数  
(出典) 高知県教育史編集委員会 (1964)  
近代 高知県教育史, 高知県教育研究所,  
723.

年度	教員数	生徒数
1874	8	300
1875	3	70
1876	13	136
1877	15	90
1878	12	34
1879	3	150



図5 立志学舎の生徒たち（撮影年不明）  
(出典) 高知市立自由民権記念館 (1998) : 立志社 20.

### 3. 立志学舎の閉校と学校の再建

立志学舎は、「立志社の獄」<sup>23)</sup>を受けて立志社の多くの社員が拘束されたうえに、立志社が政府の厳しい監視下に置かれたことに加えて、学舎の運営資金に困窮するようになり1879年に閉校することになった。立志学舎の運営期間はわずか6年であった。しかし、1880年頃に自由民権活動家の馬場辰猪が立志学舎なき後の立志社に集う青年たちに対する意図的教育の重要性を把握し、教育機関の再建に向けた支持と協力を行った<sup>24)</sup>。また、1886年に立志社の新社長に選出された山田平左衛門と副社長の島地正存が中心になって資金集めに奔走した。その結果、旧土佐藩主の山内家より寄付金を獲得する



表3 高知共立学校の教科書配当  
(出典)「共立学校時代文書」光富章代表編(1963):創立六十周年記念誌,土佐女子高等,中学校,133-135

普通科第一級	高等科第一級
歴史 チャンバラエ氏仏国史	器械学 トドハンター氏器機書
物理学 ハクスリー氏理学一般	法律学 テーリー氏法律源論
動物学 モース氏動物書	社会学 スペンサー氏経世書
経済学 ゼボン氏小経済書	心理学 カルペンター氏心理学
和漢学 文章軌範・論語	天文学 プロクトル氏天文書
数学 代数・幾何	政理学 バゼオット氏政理学
	化学 ロスコー氏化学書

(12年6ヶ月、月賦百円)、資本金として募集した寄付金の利息、授業料等をもって支弁する計画が立てられた<sup>27)</sup>。これらの活動が実を結び、1881年に谷重喜が初代校長となって高知共立学校が立志社内に設置された。1882年には修養年限普通科3年、高等科2年の本校が開校した。同年、開成社(追手筋)の建物を譲り受けて移転した。同校の教員には、立志学舎で学んだ者が複数名、在職していた。

表3は、高知共立学校の教科書配当である。立志学舎の教育と同様、人文社会科学に加えて、天文学や物理学、化学といった自然科学の分野を網羅している。土佐女子高等学校(1992)は高知共立学校の特質として、①地方分権主義に基づいて民間の共同出資による組合立の私立学校であったこと。②自由主義教育が行われたこと。③高知県内における唯一の英学専門学校の性質を持っていたこと。④既成の中学校教育に種々の意味で適合しなかったり不満を感じたりする者に中等および高等の教育を与える教育機関であったこと。」と述べている<sup>28)</sup>。なお、高知共立学校が行っていた生徒の自主的学習能力の開発に関わる学習方法は、立志学舎の伝統が受け継がれているものだという意見がある<sup>29)</sup>。

一方、高知共立学校と立志社の相違点について、「立志学舎が立志社という政治結社によって経営されていたのに対して、高知共立学校は、その名のごとく、建前としては一定額以上の資本金を出した設立員の中から選出された委員によって自治的な学校運営が行われた点で大きな違いがあった。地方分権主義を主張する民権派の立場からしても、高知県民の共立する学校だという自覚が設立者の意識に生まれていたのである。」との指摘がされている<sup>30)</sup>。

高知共立学校は、県内において高知県私立海南学校とともに私学の雄と称されるほどの評価を受けたが、天皇制の確立にともなう自由民権運動の終焉に呼応する如く校勢の不振が続いていった<sup>31)</sup>。図6は、

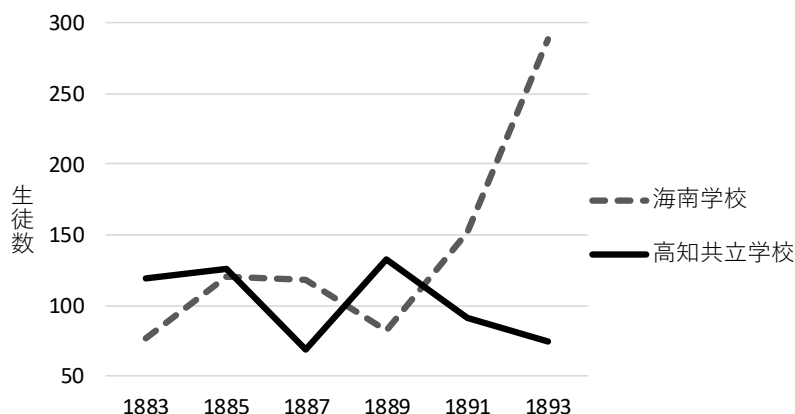


図6 高知共立学校と海南学校の生徒の推移  
(出典)高知県教育史編集委員会,前掲書,53

ことに成功している。山内家には、同家が経営する海南私塾分校(後の私立海南学校)<sup>25)</sup>があり、この資本金に藩政時代の御親兵制度廃止に伴い生じた剰余金が使われていた。山田らは、その金を海南学校のみ独占するのではなく、他にも人材養成の機会が生じた場合は、分割すべきである、と訴えていた<sup>26)</sup>。さらに、山田らは、新学校を設立する旨の趣意書を県内外に配布するとともに、資金募集を行った。学校資本金は、山内家の下付金1万5千円

高知共立学校と海南学校(後の高知県私立海南学校)の生徒数の推移を示すものである。1883~1889年度の期間を見ると、両学校ともに、ほぼ横並びに推移しているが、1893年度は200名以上の大きな格差が生じている。海南学校の生徒数が著しく増加した要因は、同校が軍人志望者以外にも門戸を開いたことや、厳格な校風を慕って入学希望者が殺到したことが考えられる<sup>32)</sup>。海南学校では、当初、山内豊範の指示の下、軍人養成を私塾教育の方針を明確にしており、私

塾分校当時、すでに撃剣と柔道を課外教科に加えて、和船やボート操漕の科が設置されるなど、軍人養成の体制が整備されていた<sup>33)</sup>。一般普通教科や兵学、フランス語などが教育されていた。

明治20年代に入ると、高知県では私立学校が中等教育の主流となってくるが、それらは県民の要求に応じて設立されたもので、県立学校の内容の充実化と相俟って、高知共立学校はその存在価値が漸次希薄となった<sup>34)</sup>。

このように、学校を取り巻く環境が大きく変わっていった。高知共立学校は、1893年に経営困難を理由に一時休校を決定するが、その翌年に中学校の予備教育機関として再開した<sup>35)</sup>。しかし、1900年に再び休校することになり、同年、師範学校の予備校となった。1903年に私立土佐女子学校と合併し、従来の男子教育を廃止した(Ⅲ章1. 参照)。

#### Ⅳ．小括

本稿は、明治期の高知県において特徴的な教育活動を展開した立志学舎について、当時の私立学校の状態を踏まえながら、設立目的や活動内容などを中心に検討した。また、立志学舎が閉校した後につくられた高知共立学校の設置経緯や学校経営の状況についても取りまとめた。立志学舎の設置者は自由民権運動を活動の趣旨とする政治団体であったが、表1で示したような高い水準の教育が実践され、さらに、英学普通学科を設置して英語教育を展開した。立志学舎で学んだ生徒には、政治家として活躍した者も少なくない。この時代にこのような学校がつけられた背景として、社会に自由民権の機運が高まり人々に人権に対する理解や広がってきたことから、様々な思想を持つ団体が組織化されたことがあげられる。それらが、それぞれが持つ理念や思想を社会に広げる意図をもって私立学校を設立した。

しかし、立志学舎及び高知共立学校ともに、学校を取り巻く様々な環境変化の影響に加えて、生徒数の減少や財源不足といった問題などを受けて、長く学校を存続させることはできなかった。特に、図6で示したように、時代の波や社会的環境の移り変わりを受けて、県民の教育ニーズが自由民権運動に関わるものから、軍人希望者でなくても入学できる厳格な校風を志向する社会的ニーズが強くなってきたことが大きな転換期であったと推察される。ただし、立志学舎や高知共立学校は消滅したものの、明治期の高知県において、強い目的意識と明確な人材養成の理念を持って創設された、これらの私立学校は、一つの時代における教育的資産となって、思想や風土、文化を形成する基礎となったのではないだろうか。

今後の検討課題として、次の点をあげる。

第1に、明治時代や大正時代における私学経営のノウハウを考察することによって、私学経営の基本ともいえる経営手法を学ぶことができるのではないだろうか。明治期の高知県では、多くの私学教育が設立母体の理念の下で行われたが、短期間で閉校した学校も多く、ほとんどが消滅している。その要因や環境はそれぞれ異なると思われるが、「数年程度で閉校した私立学校」と「長く存続した私立学校」の共通点や相違点などを整理し分析することで、私立学校を継続させるための要件を明確にできる期待が持てる。例えば、図2で示したような設立母体の附属機関のような設置形態が望ましいのか、それとも設立母体とは経営面で距離を置く独立採算制が適しているのか、検証する意義があると考ええる。その検討にあたっては、1899年開設の江陽学舎(現 高知学園中学高等学校)、1907年開設の高知女学会(現 清和女子中学高等学校)、1920年開設の土佐中学校(現 土佐中学高等学校)といった現代にも続く私立学校の経営手法を参照しながら論考することが望ましい。

第2に、本稿は、高知県における自由民権運動に係る私学教育の展開を中心に検討したが、他県の取り組みとの関連性を踏まえた論考が求められるのではないだろうか。福井県の自郷学舎(1879年開設)、千葉県の薫陶学舎(1880年開設)、熊本県の大江義塾(1882年開設)など、明治時代の前半期より各地で自由民権運動に関わりの深い私学教育が展開されており、中には「民権私塾」と呼称されるものもあった。全国的に人権に関わる運動が盛んになったことを背景に政治結社が組織されて、その団体が教育機関を設置した。立志学舎とそれらが、どのような関係を築き、あるいは影響を与えたのか、当時の教育事情を踏まえて考察することは有意義と考える。

## 注・文献

- 1) 千葉昌弘 (1987) : 土佐の自由民権運動と教育, 土佐出版社, 28.
- 2) 影山昇 (1972) : 明治初年の土佐派自由民権結社「立志社」と「立志学舎」の教育, 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学, 1-22.
- 3) 千葉, 前掲書, 108-109.
- 4) 黒崎勲 (1984) : 高知県における自由民権運動と教育, 草土文化, 207.
- 5) 黒崎, 同書, 209.
- 6) 山下重一 (1992) : 自由民権運動と英学, 日本英学史学会英学史研究, 65.
- 7) 寺崎修 (1995) : 立志学舎と慶應義塾 : 派遣教師を中心に, 法学研究, 305.
- 8) 寺崎, 同書, 306.
- 9) 土佐女子高等学校 (1992) : 高知共立学校資料集, 土佐女子学園.
- 10) 高知県教育史編集委員会 (1964) : 近代 高知県教育史, 高知県教育研究所, 54-55.
- 11) 土佐女子高等学校, 前掲書, 14.
- 12) 開成館は、土佐藩に置かれて富国強兵策の機関として 1866 年に開設された。後藤象二郎が企画運営し、貨殖、勸業、税課、鉱山、捕鯨、鑄造、火薬、軍艦、医などの局が置かれた。
- 13) 高知県教育史編集委員会, 前掲書, 48.
- 14) 開成館跡調査委員会 (2007) : 開成館, 高知市教育委員会, 24.
- 15) 開成館跡調査委員会, 同書, 24.
- 16) 高知市自由民権記念館 (1998) : 立志社～その活動と憲法草案, 高知市立自由民権記念館, 17.
- 17) 千葉, 前掲書, 99.
- 18) 千葉, 前掲書, 99-100.
- 19) 図4の地図の作成者である河田小龍は土佐藩出身であり、幕末から明治期にかけて日本画家、思想家として活動した人物である。
- 20) 高知新聞社 (1968) : 土佐百年史話, 浪速社, 309.
- 21) 千葉, 前掲書, 102.
- 22) 寺崎, 前掲書, 305.
- 23) 「立志社の極」とは、1877 年の西南戦争に乗じて、立志社の片岡健吉や林有造、大江卓などの幹部が元老院議員 陸奥宗光らと共謀して高知県で挙兵を企てたとされ処罰された事件である。
- 24) 影山, 前掲書, 17.
- 25) 海南私塾分校は、土佐藩主山内豊範が 1876 年に東京日本橋に設置した海南私塾の分校としてつくられた。教育者の吉田数馬が創設に関わり、校長を務めた。同校は、1888 年に軍人養成とともに一般の中等普通教育を目指す高知県私立海南学校 (現 高知県立小津高等学校) となった。
- 26) 影山, 前掲書, 17-18.
- 27) 土佐女子高等学校, 前掲書, 19.
- 28) 土佐女子高等学校, 前掲書, 21.
- 29) 土佐女子高等学校, 前掲書, 21.
- 30) 土佐女子高等学校, 前掲書, 22.
- 31) 影山, 前掲書, 20.
- 32) 高知県史編纂委員会ほか (1973) : 海南百年, 高知県立小津高等学校.
- 33) 高知県史編纂委員会ほか, 同書, 25.
- 34) 土佐女子高等学校, 前掲書, 24.
- 35) 高知県 (1964) : 高知県の私学, 高知県, 33.